

### 第3学年国語科学習指導案

日時 平成15年11月6日(木) 5校時

児童 3年2組 男子16名 女子19名 計35名

指導者 榊 綾子

- 1 単元名 場面の様子を想ぞうしながら読もう  
教材名 「ちいちゃんのかげおくり」

2 単元について

(1) 主たる指導目標

第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。

本単元では、上記の目標を達成するために、「読むこと」の「場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読むこと。(ウ)」「書かれている内容の中心や場面の様子がよくわかるように声に出して読むこと。(カ)」を主目標としている。

(2) 教材について

本教材は、教科書で戦争を扱う最初の作品である。戦争で、一人の小さな女の子が家族と離れ離れになり、家族を思いながら、ついにその命を奪われるという物語である。

本文は五つのまとまりから構成されており、特に最後の「それから何十年」かたった町の様子は、現代に生きる我々に平和の大切さと、それを守ることの尊さを示している。

場面設定も明確であり、場面の様子を表す言葉や言葉の使い方から想像を広げていくことができる。また、第一場面の家族そろってのかげおくりと第四場面の一人でのかげおくりとを対比したり、ちいちゃんと第五場面に描かれている子どもたちとを比べたりすることによっても、読みを深めることができる教材である。

3 児童の実態

読書が好きな児童が多い。児童は、これまで「きつつきの商売」「三年とうげ」の物語文の学習をした。「きつつきの商売」では、描かれている情景を、叙述をもとに想像しながら読み、音読を工夫する学習をした。「三年とうげ」では、感想を話し合い、感じ方の違いや物語のおもしろさに気づいたり、「本の帯」を作ったりする学習をした。これらの学習を通して、叙述に即して読もうとする意識は高まってきている。しかし、言葉への気付きや、文脈における言葉の意味、語感などの幅のある理解や読み取りの力はまだまだである。また、音読活動にも意欲的に取り組むが、様子がよく分かるように音読する力は、まだ十分ではない。

4 指導にあたって

低学年の想像を広げる読みを土台に、叙述に即して想像して読むことや言葉への気付きを大切にしたいと考える。

第一次では、あらすじをもとに、心に残った場面の感想を書かせ、それを第二次「ふかめる」学習の発問につなげていきたい。また、戦争をテーマにした本の並行読書を進めていくこと、お家の方や戦争を体験した方々を招いた「ちいちゃんのかげおくりを紹介する会」を開くことを知らせ、意欲的に学習に取り組もうとする気持ちを喚起させたい。

第二次では、課題解決のために、視写や音読活動を通して、場面の様子が表れている言葉を見つけさせ、叙述に即した想像を広げさせる。その際、言葉への気付きを大切にさせたい。また、場面毎だけではなく、第一場面の家族そろってのかげおくりと第四場面の一人でのかげおくりとを対比したり、ちいちゃんと第五場面に描かれている子どもたちを比べてたりして読むことにより、さらに読みを深めさせたい。

第三次では、「ちいちゃんのかげおくりを紹介する会」を開き、読み取ったことや感じたことを、さらに深め、広げる。そのために、「相手意識、目的意識、場面意識、方法意識、評価意識」の5つの言語意識を明確に持たせた活動を展開させていきたい。

5 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

ちいちゃんのかげおくりの場面毎の様子を進んで読み、お家の方や戦争を体験した方に対して紹介するための活動に進んで取り組もうとしている。

(2) 読むこと

ちいちゃんのかげおくりの場面毎の様子を叙述に即して想像し、それを声に出して読むことができる。

(3) 言語事項

表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句の性質や役割を理解することができる。

6 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
A十分	読みの交流を通して自分の読みをさらに深め、紹介するための活動では、5つの言語意識を強く持ち進んで取り組もうとしている。	叙述をもとにした明確な根拠を持って場面の様子を想像し、それを声の大きさや速さを工夫して読んでいる。	表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句の性質や役割を理解し、使っている。
B概ね	場面毎の様子を進んで読み、紹介するための活動では、5つの言語意識を持ち、進んで取り組もうとしている。	場面の様子を叙述に即して想像し、それを声に出して読んでいる。	表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句の性質や役割を理解している。
C未だ	登場人物に共感させながら、場	場面の様子を叙述をもとに想像	表現したり理解したりするため

<p>面の様子を読ませ、紹介するための活動では、誰に何を伝えたいかの思いを聞き、支援する。</p>	<p>するように助言したり、音読を参考にしたりするように促す。</p>	<p>に必要な語句の意味を説明する。</p>
---------------------------------------------------	-------------------------------------	------------------------

7 学習指導計画 (全11時間)

階	主な学習活動	国語への関・意・態	読むこと	言語事項
みとおす ②	<p>教材文を読み、挿し絵から各場面のあらすじをおさえる。並行読書に取り組むこと、「ちいちゃんのかげおくりを紹介する会」を開くことを知る。①</p>	<p>集中して教材文を読み、進んであらすじをおさえるようとしている。</p>	<p>挿し絵をもとに各場面のあるすじをおさえている。</p>	<p>表現したり理解したりするために必要な語句を増している。 ・戦争を背景とした語句</p>
	<p>各場面と教師が作った課題とを結びつけ、一番心に残った場面を選び、感想を書く。①</p>	<p>心に残った場面を選び、自分の考えを持ち、進んで感想を書こうとしている。</p>	<p>各場面のあらすじと課題とを結びつけ、心に残った場面を選び、自分の考えを持ち、感想を書いている。</p>	<p>・戦争を背景とした語句</p>
ふかめる ⑤	<p>一の場面を読み、かげおくりをしている家族の様子を想像しながら読む。①</p>	<p>場面の様子を進んで読もうとしている。</p>	<p>かげおくりをしている家族の様子を、四人の会話をもとに想像し、声に出して読んでいる。</p>	<p>・四人の会話文 ・四人の行動</p>
	<p>二の場面を読み、空しゅうから逃げるちいちゃんたちの様子を想像しながら読む①</p>		<p>空しゅうから逃げるちいちゃんたちの様子を、お母さんの会話をもとに想像し、声に出して読んでいる。</p>	<p>・お母さんの会話文 ・お母さんの行動 ・状況を表す言葉</p>
	<p>三の場面を読み、母と兄を待ち続けるちいちゃんの気持ちを想像しながら読む。①</p>		<p>母と兄を待ち続けるちいちゃんの気持ちを、ちいちゃんの会話をもとに想像し、声に出して読んでいる。</p>	<p>・ちいちゃんの会話文 ・ちいちゃんの行動</p>
	<p>四の場面を読み、一人でかげおくりをするちいちゃんの様子を想像しながら読む①</p>		<p>一人でかげおくりをするちいちゃんの様子を、かげおくりをしている数え声をもとに想像し、声に出して読んでいる。</p>	<p>・数え声の会話文 ・ちいちゃんの行動</p>
	<p>第一場面と第四場面を対比し、ちいちゃんにとって、どんな「かげおくり」だったかを読み取る。第五場面を読み、あまんきみこさんの伝えなかったことを読み取る。①</p>	<p>場面と場面を比べて読もうとしている。</p>	<p>これまで学習してきた登場人物の様子の違いに着目して読んでいる。 「きらきら」の言葉に着目してちいちゃんと現在の子どもたちの状況を比べて、平和について考えている。</p>	<p>・登場人物の様子  ・ちいちゃんの様子 ・現在の子どもたちの状況</p>
まとめる ④	<p>「ちいちゃんのかげおくりを紹介する会」にむけ、どんな紹介方法があるかを考え、紹介方法を決める。①</p>	<p>「ちいちゃんのかげおくりを紹介する会」にむけ進んで自分の紹介方法を考えようとしている。</p>	<p>どんな紹介のしかたがあるかを考え、自分の紹介方法を決めている。</p>	
	<p>「ちいちゃんのかげおくりを紹介する会」のための活動をする。③</p>	<p>「ちいちゃんのかげおくりを紹介する会」のため進んで活動をしている。</p>	<p>相手意識、目的意識、場面状況意識、方法意識、評価意識をもちながら、発表のための活動をしている。</p>	<p>語句の性質や役割を理解している。</p>

8 本時の目標

(1) ねらい

一人でかげおくりをするちいちゃんの様子を表す言葉に着目し、視写や音読活動を通して、叙述に即して想像しながら読むことができる。

(2) 展開

階	学習活動 ○発問	欄	予想される児童の反応	教師のかかわり
みとおす	1 前時想起と学習場面の確認。 2 本時の学習課題を確認する。	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>空腹状態で母と兄を待ち続けるちいちゃんを想起させる。</li> <li>一人でかげおくりをする、空色の花畑で家族を見つける場面であることを確認する。</li> </ul>
	一人でかげおくりをするちいちゃんの様子を想ぞうしながら読もう。			
ふかめる	3 本時の学習場面を音読する。 ○ちいちゃんが、一人でかげおくりをしているのが分かる所は、どこですか。  4 数え声を視写して、ちいちゃんの様子を想像する。 ○数え声を視写しよう。  5 数え声を音読して、ちいちゃんの様子を想像する。 ○「ひとつ、ふたあつ、みいつ。」を、そのように読む理由は何ですか。サイドラインを引きましょう。 ○「ようっつ、いつうっつ、むうっつ。」は、誰の声ですか。読みましょう。 ○「ななあつ、やあっつ、ここのうっつ。」「とお。」は、誰の声ですか。その理由が分かる所にサイドラインを引きましょう。  ○「とお。」は、なぜそのように読んだのですか。理由を書き、発表しましょう。  ○「ひとつ、ふたあつ、みいつ。」から「とお。」まで音読しましょう。	5  3  27	<p>&lt;一斉読&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がると、たった一つのかげぼうしを眺めながら、数えました。</li> <li>「ひとつ、ふたあつ、みいつ。」の数えている所。</li> <li>ちいちゃんが空を見上げると、静空に、くっきりと白いかげ畑。</li> </ul> <p>&lt;視写&gt;</p> <p>「ひとつ、ふたあつ、みいつ。」 「ようっつ、いつうっつ、むうっつ。」 「ななあつ、やあっつ、ここのうっつ。」 「とお。」</p> <p>&lt;役割読み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふらふらする足をふみしめて</li> <li>暑いような寒いような</li> <li>ひどくのがかわれている</li> <li>ちいちゃん 叔さん</li> </ul> <p>&lt;役割読み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ちいちゃん 叔さん 叔さん</li> <li>お母さんの声も、それに重なって聞こえた、だから。</li> <li>ちいちゃん 叔さん 叔さん 叔ちゃん</li> <li>お兄ちゃんのわらいそうな声も重なってきた、だから。</li> </ul> <p>&lt;役割読み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>くっきりと白いかげを四つおくることができたように力強く。</li> <li>家族の声をしっかりそろえて。</li> <li>かげをおくりたいという願いをこめて大きく。</li> </ul> <p>&lt;役割読み&gt;</p> <p>《判断基準》</p> <p>A 数え出した所と四人そろった所の両方とも、叙述に即した音読の根拠を明確に持っている。</p> <p>B 数え出した所、四人そろった所のどちらか一つ、叙述に即した音読の根拠を明確に持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ちいちゃんが一人でかげおくりをしている所を見つけながら音読させる。</li> <li>正しく視写させるために、会話文を一文ずつ書かせる。</li> <li>視写後、かげおくりをしている所を音読させ、焦点化する。</li> <li>ちいちゃんの様子を表す言葉にサイドラインを引かせる。</li> <li>今日の抽出児を中心にチェックし、支援をする。</li> <li>お父さんの声が重なった理由にサイドラインを引かせる。</li> <li>「とお。」とくっきりと白いかげが四つ上がったことをつなげて音読を考えさせ「とお。」の読み方の根拠を書き込ませる。</li> <li>抽出児のチェック、支援をする</li> <li>4人グループの役割読みから、学級全体の役割読みをさせる。</li> <li>Cへの配慮 視写文をつかって、叙述を確認しながら、根拠を見つけさせる。</li> </ul>
	6 空色の花畑で家族を見つけたこと、ちいちゃんの死について確かめる。	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>最後の一文は、ちいちゃんの死であることを確認する。</li> </ul>
まとめる	7 ちいちゃんに手紙を書こう。 ○かげおくりをして、空色の花畑で家族を見つけたちいちゃんに手紙を書こう。	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後の力をふりしぼってかげおくりをして、四つのかげをおくったね。空色の花畑で家族に会えてうれしかったんだね。でもちいちゃんの死、私は悲しいよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かげおくりの様子、家族との再会とちいちゃんの死との結びつきを手紙形式で書かせる。</li> </ul>

△板書計画▽

場面の様子をお読みしながら読む  
あまん きみこ作

おなががすいている

想ぞ一人しながげからお読みをするちいちゃんの様子を

父、母の声、青い空から

一人でかげおくりをする

ひ暑どいくよなが寒かいわいうている

ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて  
立ち上がると、たった一つのかげぼうしを  
見つめながら、数えだしました。

「ひとつつ、ふたあつ、みいっつ。」 ちいちゃん

「ようっつ、いつうつ、むうっつ。」 ち父

「ななあつ、やあっつ、ここのうつ。」 ち父母

「とお。」 ち父母兄

ちいちゃんが空を見上げると、青い空に、  
くつきりと白いかげが四つ。

「ちいちゃんよ。おびーお兄ちゃん。」  
「お父ちゃんよ。お母ちゃん。」

空色の花畑で家族を見つけた

きらきらわらいだした

小さな女の子の命が、朝、空に消えまてした。